

Xampp でドメインを複数割り当てる方法

実行環境 WIN7 XAMPP1.8.2

注意 この手法は OS の重要なファイルも触ります。貸与されているパソコンで行う場合は貸与期間が終わったら必ず元に戻すようにしてください。

目的

デフォルトのままだと htdocs がルートになり、その下にディレクトリを作成してその配下にて制作物を展開していくと、

<http://127.0.0.1/hoge/>

としなければならない。

これを

<http://hoge/>

としたい。

つまり仮想のルートを複数持ちたい。

変更ファイル

C:\xampp\apache\conf\extra\httpd-vhosts.conf

C:\Windows\System32\drivers\etc\hosts

準備

htdocs 配下に割り当てたいディレクトリを準備する。

たとえば、hoge hoge

アパッチを停止してください。

httpd-vhosts.conf の変更

```
##NameVirtualHost *:80
```

の ## を削除

```
NameVirtualHost *:80
```

とする。

参考例として記載されている、

```
##<VirtualHost *:80>
    ##ServerAdmin webmaster@dummy-host2.example.com
    ##DocumentRoot "C:/xampp/htdocs/dummy-host2.example.com"
    ##ServerName dummy-host2.example.com
    ##ErrorLog "logs/dummy-host2.example.com-error.log"
    ##CustomLog "logs/dummy-host2.example.com-access.log" common
##</VirtualHost>
```

をコピーして、
一番したに貼り付け下記のように変更する。

```
<VirtualHost *:80>
    ##ServerAdmin webmaster@dummy-host2.example.com
    DocumentRoot "C:/xampp/htdocs/hogehoge"
    ServerName hogehoge
    ##ErrorLog "logs/dummy-host2.example.com-error.log"
    ##CustomLog "logs/dummy-host2.example.com-access.log" common
</VirtualHost>

<VirtualHost *:80>
    ##ServerAdmin webmaster@dummy-host2.example.com
    DocumentRoot "C:/xampp/htdocs "
    ServerName 127.0.0.1
    ##ErrorLog "logs/dummy-host2.example.com-error.log"
    ##CustomLog "logs/dummy-host2.example.com-access.log" common
</VirtualHost>
```

httpd-vhosts.conf ファイルの#はコメントアウトとなります。

今回やったことは、

NameVirtualHost *:80

(名前割り当てバーチャルホスト機能を有効にする)

DocumentRoot "C:/xampp/htdocs/hogehoge"

(割付を行うドキュメントルートパスの通りとする。)

ServerName hogehoge

(割付を行うドメイン名を設定する。)

ということです。

Hosts ファイルを変更する。

このファイルを編集するには、管理者権限が必要になります。

メモ帳を「管理者として実行」をしてから、メニューから開く →

C:\Windows\System32\drivers\etc\hosts

を開いてください。

行の最後にある

#	127.0.0.1	localhost
#	::1	localhost

をコピーして

127.0.0.1	localhost
::1	localhost

#をはずします。

さらに

127.0.0.1	hogehoge
::2	hogehoge

とします。

これで、hogehoge というドメインをローカルで使用する準備がととのいました。

アップパッチを再起動して、

<http://hogehoge> としてみてください。

hogehoge 配下に index. ファイルを置いておけば、これでアクセスできていることがわかるはずです。